問い合わせ先
県土マネジメント部建設産業課
公共工事契約管理係
0742－27－7425

令和8年度　第1回奈良県入札監視委員会（定例会議）　会議録要旨

開催日時	令和8年8月3日　14:00～16:00	
開催場所	修徳ビル　中会議室	
出席委員	委員長　仁木　恒夫 委員　熊谷　礼子 清水　陽子 庄田　尚代 今治　周平	
審議対象期間	令和7年12月1日～令和8年3月31日	
事務局等からの報告	○審議対象期間中の総契約件数、入札参加停止措置状況について説明	
審議案件数	6　件	（備考）
うち一般競争入札	5　件	
うち指名競争入札	0　件	
うち随意契約	1　件	
審議の結果	抽出案件については、不正を疑わせる内容は確認できず、概ね妥当であると考える。	
委員会による意見具申等		
その他		

抽出案件に対する委員からの質問等	発注機関等の回答等
案件1　柳田川　進入路施設整備工事（事業間連携事業（砂防）（国補正）他）	
最低制限価格が事前公表であることから最低制限価格での入札が多くなったとのことだが、参加条件合致業者の約半数が入札に参加している。同種の工事でも同様に入札者が多いのか。	難度の高い工事ではなく、受注意思の強い業者が受注と利益の確保を検討した結果、多くの入札者が最低制限価格で入札した。同規模の他工事でも同様に最低制限価格での入札が多い。

最低制限価格が事後公表であった場合でも、最低制限価格での入札が多くなると見込まれるか。	入札者の積算能力が必要であり、事前公表と比較すると入札は少なくなると思われる。なお、積算に際しては公表している単価資料、公告時に添付している積算参考資料をもとに入札参加者が積算することになる。
案件２　桜井田原本王寺線　鳥居大橋改修工事（緊急自然災害防止対策事業（補修）他）	
3者が低入札価格調査基準価格を下回る価格で入札したが、低入札価格調査基準価格の設定は妥当であったか。	低入札価格調査基準価格は奈良県の基準をもとに積算し妥当なものであるが、低入札価格調査基準価格を下回る価格で入札した3者は、受注意思があり、低入札価格調査基準価格であろう金額を積算し入札したものと思われる。落札者も受注意思があり、利益の確保等を自社で積算した結果、予定価格に近い金額での入札になったと考えられる。
低入札価格調査基準価格を下回る価格で入札したいずれの者も低入札価格調査意向確認書の提出がなく失格となったとのことだが、低入札価格調査意向確認書とはどのようなものか。	低入札価格調査意向確認書とは、入札金額が低入札価格調査基準価格を下回った場合に、低入札価格調査を受ける意向を確認するため、あらかじめ入札時に提出するものである。低入札価格調査意向確認書の提出がない場合は、低入札価格調査を受ける意思がないものと判断し失格になる。
案件３　第二浄化センター処理水配管等更新工事	
本工事は配管の更新工事であるが、当初に配管を設置した業者が、今回の更新も行ったのか。	同じ業者であったかは回答を持ち合わせていない。一般的に機械設備工事については、設置した業者が更新も対応することが多いが、今回のような配管工事については異なる業者でも対応できる。
配置予定技術者の資格要件を満たすことが難しいことから、1者入札になったと考えられるか。	配置技術者の資格要件もあるが、下水処理場の設備の取扱いができる業者自体が少なかったと考えられる。
下水道設備の更新工事は今後も多くあると思うが、取扱いできる業者が少ない中、業者の育成は可能か。	下水道設備関係の協会や団体との関わり等、持続的に対応を考えていきたい。
案件４　浄化センター汚泥消化タンク機械棟3号温水ヒータ更新工事（防災・安全交付金事業）	
当初に設備を設置した業者が、今回の更新も行ったのか。	当初に設置した業者が今回の更新工事を行った。必ずしも設置した業者以外が対応できないことはないため、競争性の確保の観点から一般競争入札を実施したが、設置業者以外での対応のむずかしさや下水処理場の設備の取扱いができる業者自体が少なかったと考えられる。
案件５　奈良県立大学（仮称）教育研究棟新築工事（機械設備工事）	
同時期に県等の公共工事や民間工事が多く発注され、配置する技術者が不足したため応札者が限られているとのことであるが、高額な工事であり、奈良県の他の工事と発注時期が被らないように調整したか。	奈良県では県立高校のトイレ改修工事を多く発注していることから、工事発注の平準化を図るため、所要工期や現場条件を確認しながら発注時期を調整していきたい。

案件6　大和郡山環状線　地下埋設管補修工事（道路復旧緊急対策事業）	
埋設管の破損は偶然見つかったものか。	国道と県道の交差点の改良工事があり、事前に県道の調査していたところ破損が見つかったものである。
落札率が高くなったのは、業者の技術力や積算能力が高いためか。	工事の受注実績も豊富であり、技術力が高く、土木工事の積算に関しても精通していると思われ、落札率が高い結果になったと考えられる。